

NHK学園

書道・ペン字検定

課題集

保存版

2022年4月改訂

NHK学園で実施している書道・ペン字検定の課題集です。

級位から段位へと、自分の実力が確認できます。技術を磨き、ぜひ師範まで目指してください。

級位・段位を早く上げたい方は、毎回受けることをお勧めします。講座の受講とともに実力を養う一つの機会としてご利用ください。

師範試験も通信（在宅）で受験できます。

NHK学園 書道・ペン字検定課題

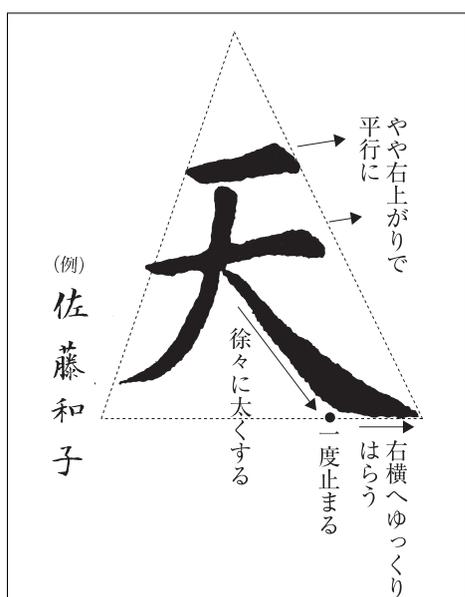
漢字部門

初めて受ける方の課題

半紙

- ・これを手本にして半紙に大筆で書いてください。
- ・半紙の広さに調和する大きさで書いてください。
- ・左側に自分の氏名を入れます。

ポイント



(例) 佐藤和子

7級課題

(現在8級の方の課題)

半紙

※ 氏名も調和するように体裁よく書いてください。

孔子廟堂碑より集字

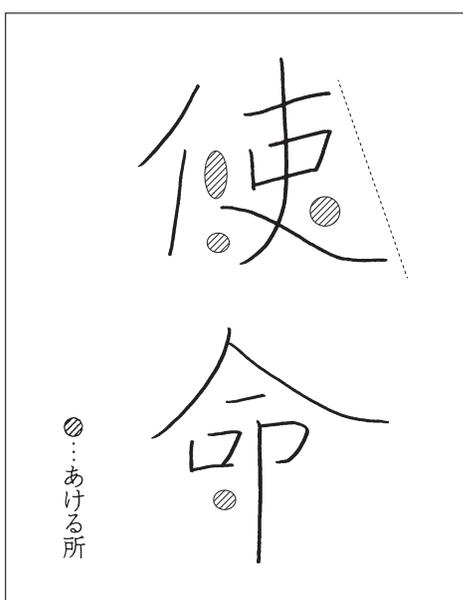


使命

ポイント

使 にんべんはあまり幅をとらず、旁で字幅を出す。右はらいは筆を開いて、ゆつたりと伸ばす。

命 左右のはらいを伸びやかに。七画目の転折は、角ばらず、丸味をつけて穏やかに運筆。



6級課題

(現在7級の方の課題)

半紙

※ 氏名も調和するように体裁よく書いてください。



九成宮醴泉銘

聖人之徳

ポイント

聖 三つの部分の大きさ、位置関係に注意。「耳」は一画目を力強く入れ、二画目以降との組み合わせに注意し、縦長に大きく。「口」は小さく扁平に。「王」は台形にし、最終画を力強く。

人 起筆は角度に注意。払いは筆先をそろえるようにゆっくり力を抜く。

之 上部は起筆の角度に注意し扁平につめ気味に。右払いは力強く。

徳 偏は縦長に。旁は横への動きを大きく、直線をすっきり。「心」は四画目の方向、位置に注意して横広に。



5級課題

(現在6級の方の課題)

半紙

※ 氏名も調和するように体裁よく書いてください。

集王聖教序より集字



成長

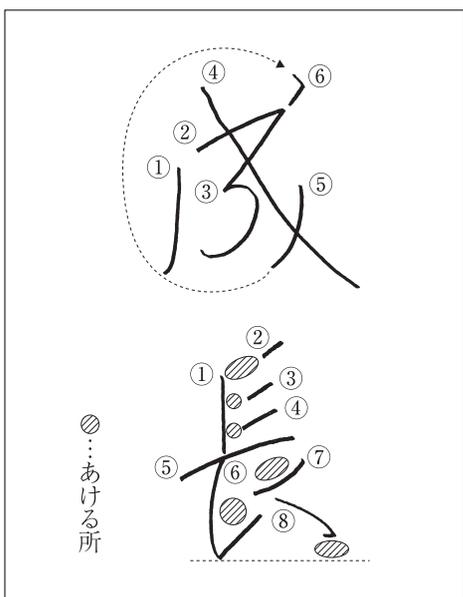
ポイント

成

二画目は、収筆から左下方へ伸ばし、三画目に連続させる。四画目は右下方へ長くグッとそる。五画目から六画目は、空間で大きく半円を描くようにして気脈をつなげる。

長

二、三、四、五画目の横画は、等間隔でやや右上がり、平行に書く。最終画の八画目は、下にさがらないように。



4級課題

(現在5級の方の課題)

半紙

※ 氏名も調和するように体裁よく書いてください。

集王聖教序より集字



風雲水月

ポイント

風 一画目は軽く入り、そり気味に。

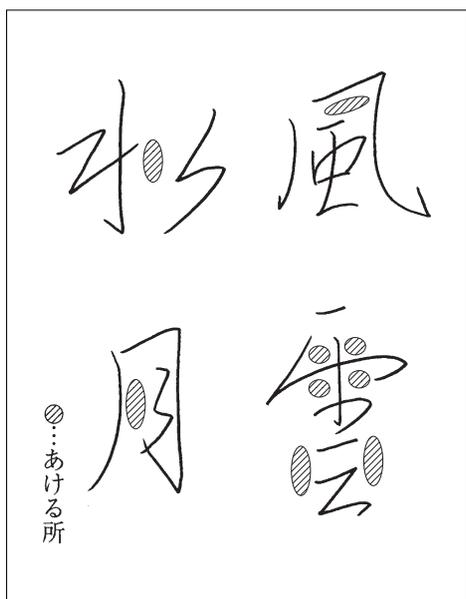
二画目右上の転折は角度に注意し、力強いそりをつけて進み、止めてから鋭角的にゆっくりはねる。

雲 雨冠は転折を鋭角に書き、幅広く力強い動きをつける。下部は幅を小さくして、転折で引き締める。

水 一画目の起筆は鋭角的に入れる。

二画目以降は転折を鋭角にとり、左右への動きをつけてリズムカルに。

月 一画目はゆったりした曲線で力強く。二画目は引き締めてすっきり。



◎…あける所

3級課題

(現在4級の方の課題)

半紙

※ 落款は名前^{プラス}十臨^{プラス}(十印)と入れます。



蘭亭序

天朗氣清
〈訓読〉天朗らかに氣清み
〈意味〉空は晴れ大氣はすみ

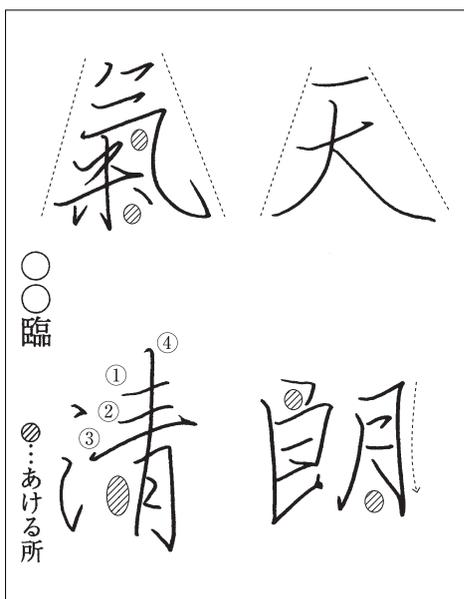
ポイント

天 二画目は右上がりにして、三画目につなげる気持ちで。右はらいは押していき、方向を変えて軽く止める。

朗 一画目は横から入り、上部を大きく取る。六画目の点は、上にはね上げ、次画へ向かう。

氣 四画目は、右へ大きく張り出し、文字の底辺を広く取る。

清 傍の「青」部分は横画を三本引いてから、縦画へつなげる。さんずいが、大きくなりすぎないように注意。



2級課題

(現在3級の方の課題)

半紙

※ 落款は名前^{プラス}十臨^{プラス}(十印)と入れます。



書譜

題後答之 (訓読) 後に題して之に答う

〈意味〉返事を書いて送り返してきた

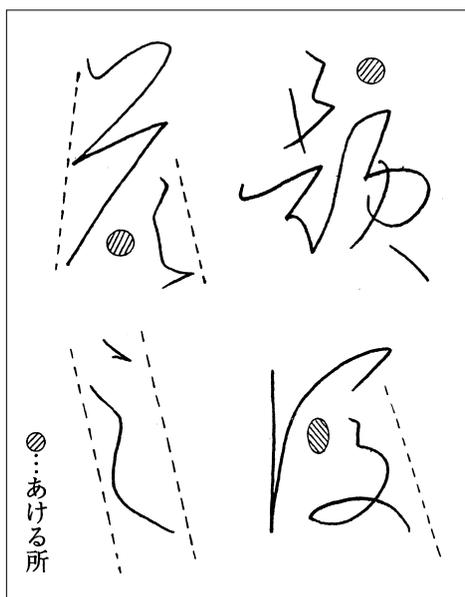
ポイント

題 左側上部は縦の動きをつけて軽快に、下部は転折をしっかりと力強く。右側は上部を空け、横への動きをつける。

後 一画目は上方向に深く折り返す。右側部分は、抑揚をつけてゆったりした曲線で。

答 上部は転折に注意して、左右への動きを大きく。下部は小刻みな動きで、線の方向に注意。

之 筆圧に微妙な変化をつけながら、方向に注意してゆったりした動きで。



●...あける所

1級課題

(現在2級の方の課題)

半紙

(草書・漢字かな交じりの二課題、二枚を提出)

※ 落款は名前^{プラス}十臨^{プラス}(十印)と入れます。

書譜



(心) 手雙暢。翰不虛(動)。 訓読 心手双つながら暢び、翰虚しく動かず、

〈意味〉 心境、手腕ともに暢達して、気ままな運筆にならず、

ポイント

手 転折は硬くならないように、左右への動きを大きくとる。

雙 上部の左側は大きく、右側はつめ

気味に。下部は空間をゆつたりとる。

暢 偏の縦画はそりをつけ右へ傾ける。旁は空間をゆつたり。

翰 偏は右へ傾け、旁は概形を三角形にとり、全体のバランスをとる。

不 弾力を生かしてリズムカルに。気持ちのつながりを大切に。

虚 全体の筆圧の変化を大胆につける。上部は右上がり、下部は右下がり。



●…あける所

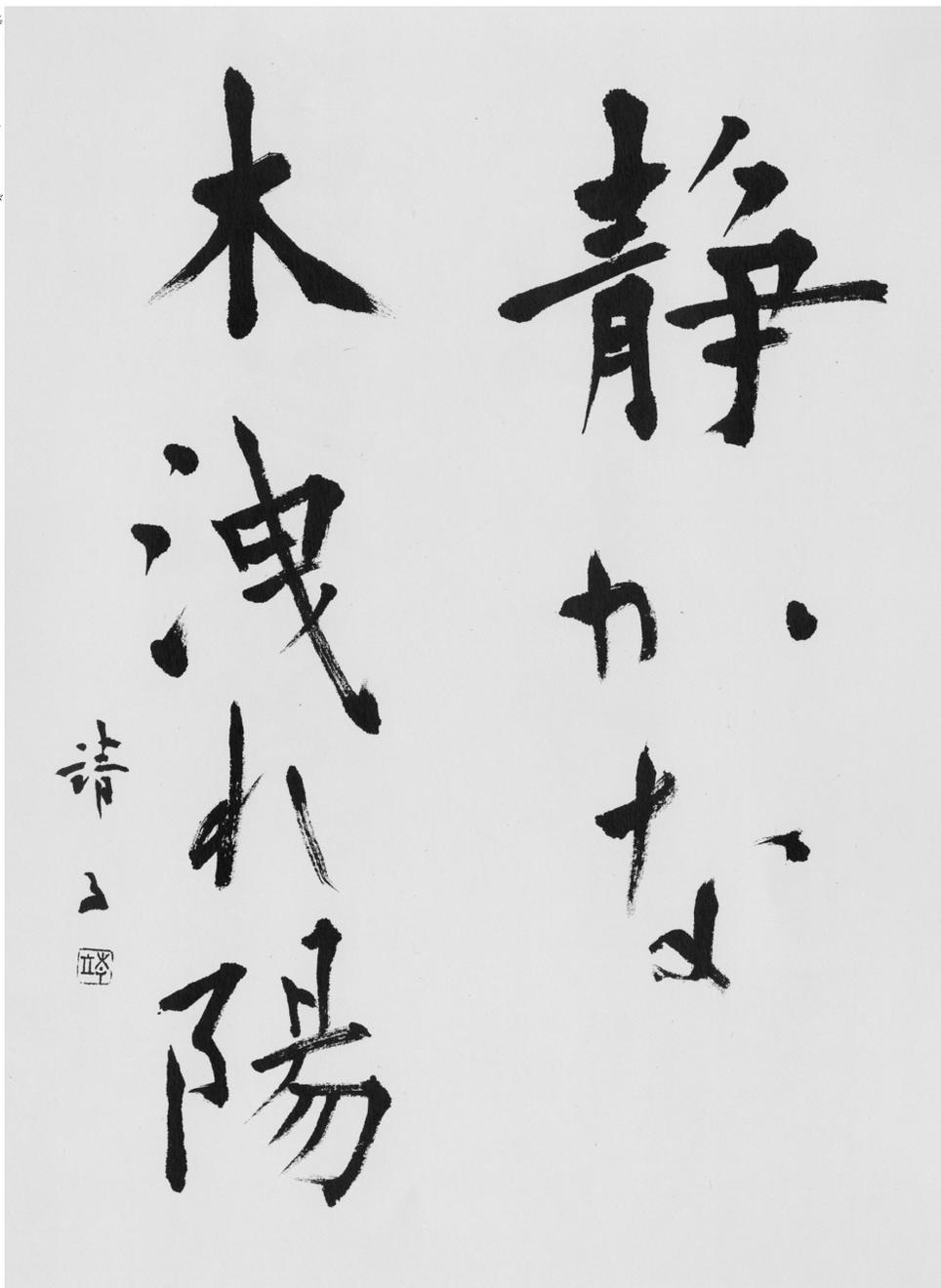
1級課題

(現在2級の方の課題)

半紙

※ 落款は名前のみまたは名前+書(十印)と入れます。

漢字かな交じり



静かな 木洩れ陽

ポイント

イメージ

・鋭く、きりつと引き締めて

紙・筆・墨

・半紙(縦長に使う)

・4〜6号の大きさ

・にじまない程度に磨る

アドバイス

・漢字は「九成宮醴泉銘」のそり気味に引き締まった字形で、かなは漢字に合わせて細めにすっきりと書く

古典参考資料

・欧陽詢「九成宮醴泉銘」(唐時代)



直線的で、ひきしまった縦長の字形が特徴



初段課題

(現在1級の方の課題)

(楷書・行書・隸書の三課題、三枚を提出)

(楷書) 半紙

※ 落款は名前+臨(十印)と入れます。

九成宮醜泉銘



(損之) 又損。去其泰(甚。)

(訓読) 之を損して又損し、其の泰甚なるを去り、

(意味) 削り去った上にさらに削り、贅沢なところや過度なものを取り去って、

ポイント

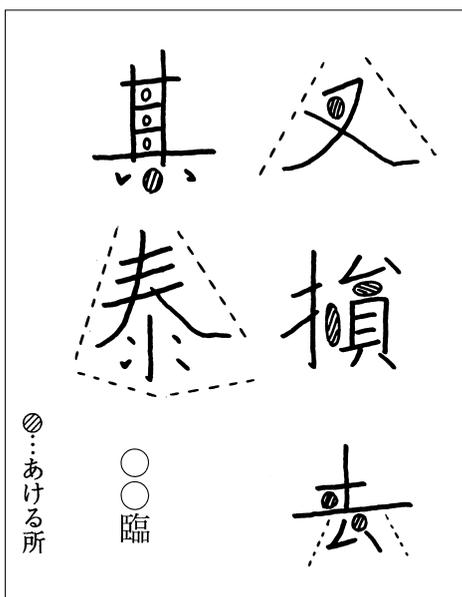
又 転折部分をしっかりと書き、左払いは筆を立ててゆつくり長く。

損 偏の右側部分は控えめに。旁は縦画を力強く。

去 点画の起筆の角度に注意。三画目は太さに微妙な変化をつける。

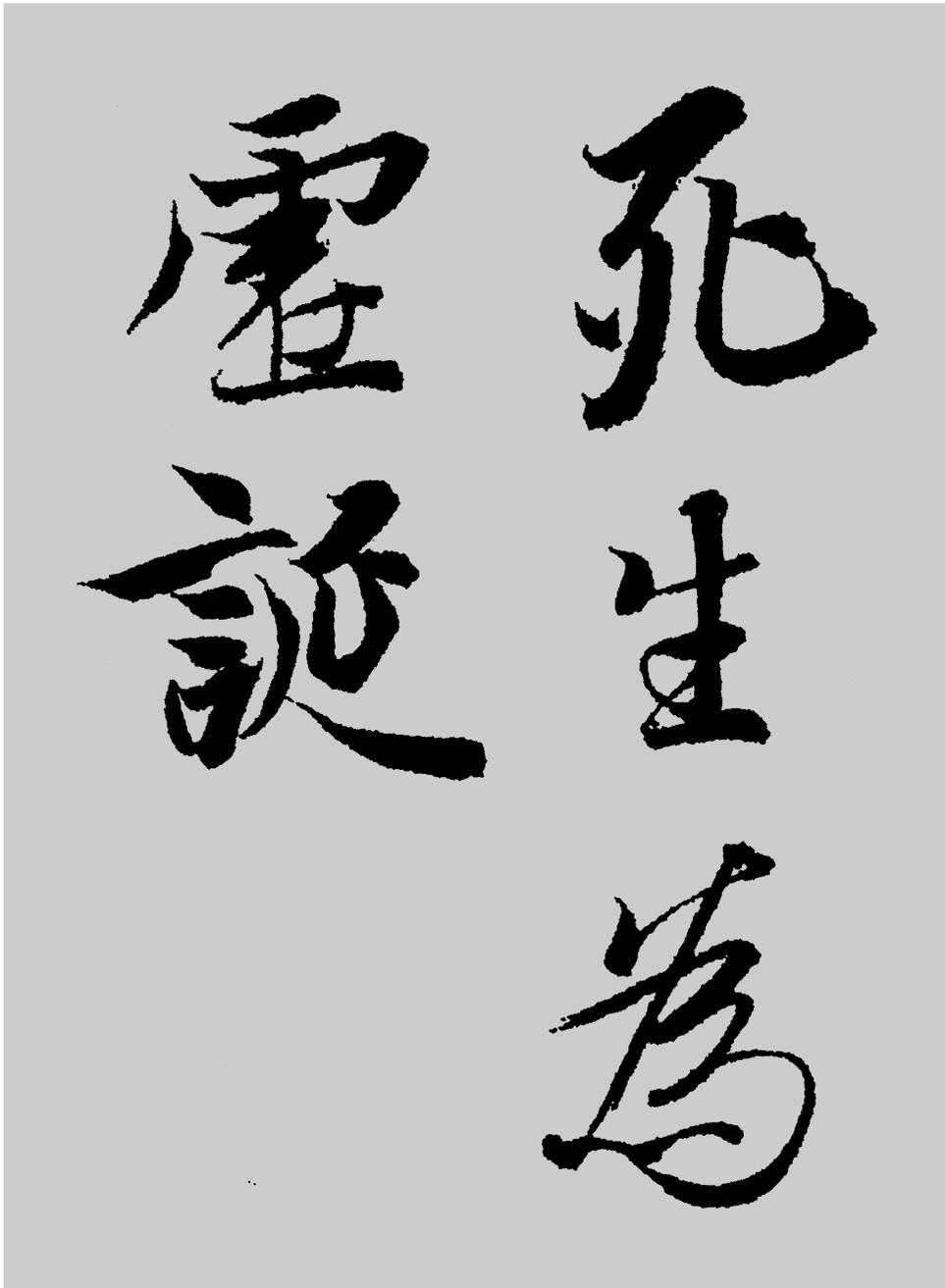
其 横画、縦画をそれぞれ平行に。二つの点の間隔をゆつたりとする。

泰 横画は徐々に長く。左右の払いをゆつたり長く。



(行書) 半紙

※ 落款は名前 + 臨 (十印) と入れます。



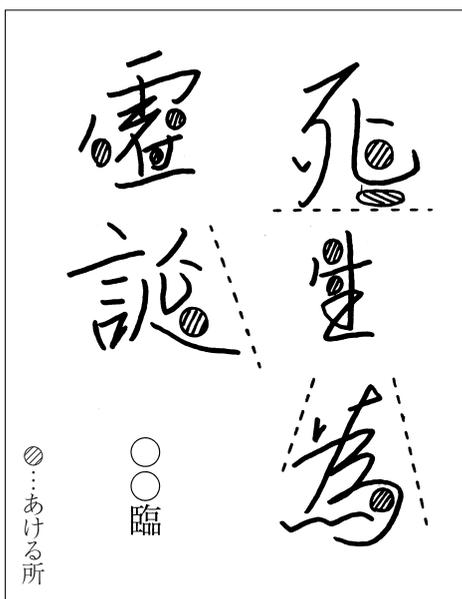
蘭亭序

(固知) 死生為虚誕。 (訓読) 固より死生を一にするは虚誕たり、

(意味) もとより死と生を同一視するのはいつわりであり、

ポイント

死 つき返す所は深く、太細の変化をつける。右上がりに。
生 全体に小さく、太細の変化をつける。縦画の起筆は逆筆に入れる。
為 筆先の弾力を生かして、つき返す所をしっかりと。横への動きを大きく。
虚 上部は幅広くゆったり大きく。下部は細めに小さく。
誕 偏の線の方向に注意。旁は太細の変化をつけて大きな動きで。



（隸書）半紙

※ 落款は名前+臨（+印）と入れます。



曹全碑

元年 <訓読> 元年

<意味> 年号などの改まった最初の年

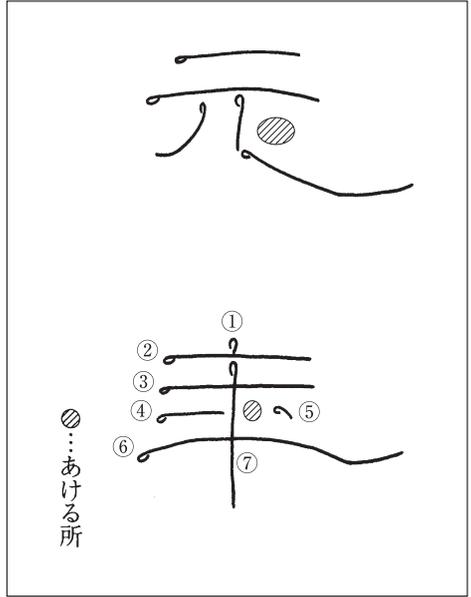
ポイント

隸書の
主な特徴

- ① 字形は扁平
- ② 横画は水平
で等間隔
- ③ 起筆は蔵鋒
（きびつ ぞうほう）
- ④ 波磔がある



元 三画目は、筆圧をかけ押し出すようにして軽く止める。四画目は曲げる時、一度止まり方向を変えて徐々に筆圧をかけ、収筆に波磔をつくる。
年 横画は等間隔にし、六画目はゆったり横へ伸ばし、波磔をつくる。



二段課題

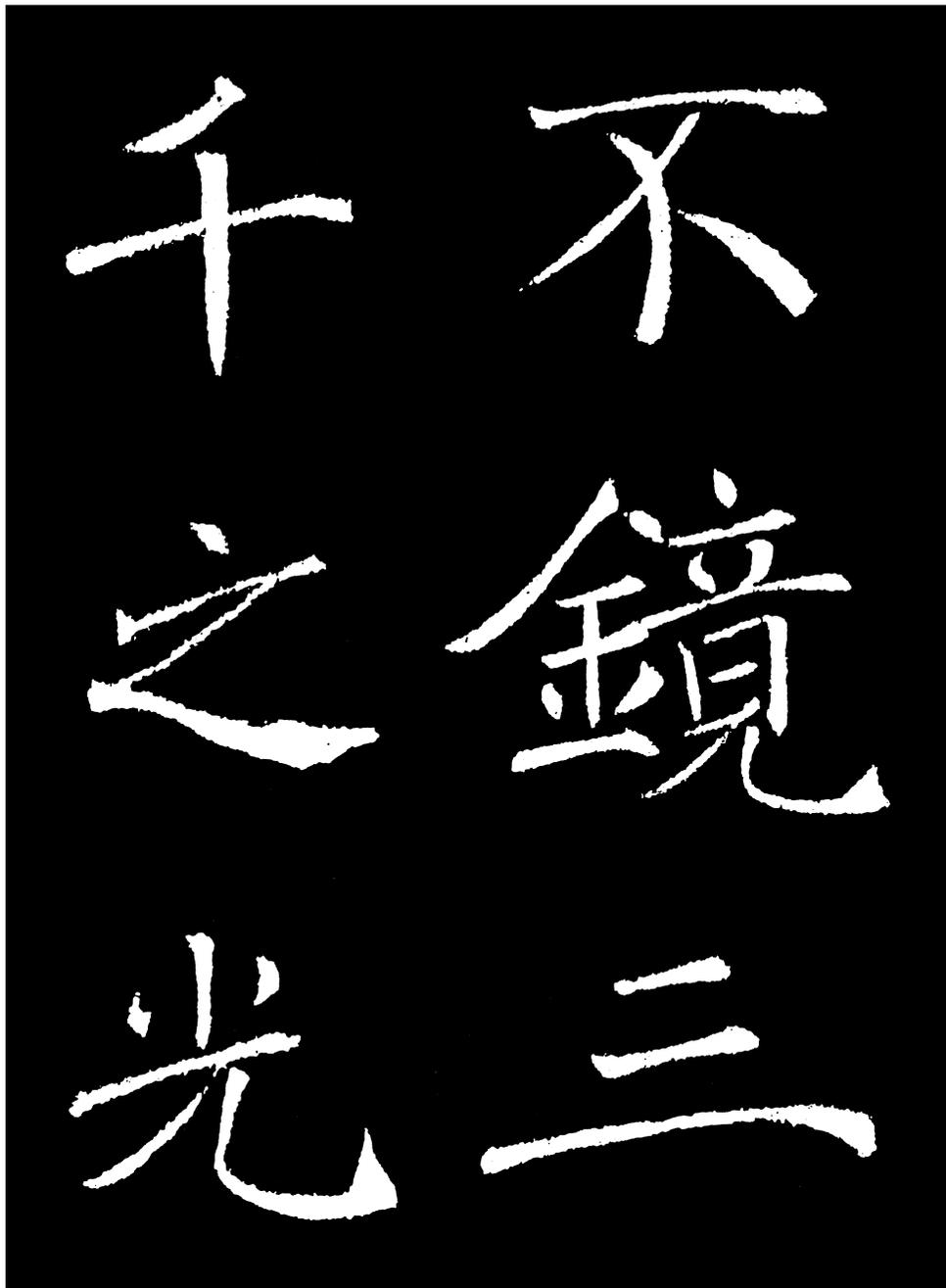
(現在初段の方の課題)

(楷書・草書・隸書の二課題、三枚を提出)

(楷書) 半紙

※ 落款は名前 十臨 (十印) と入れます。

雁塔聖教序



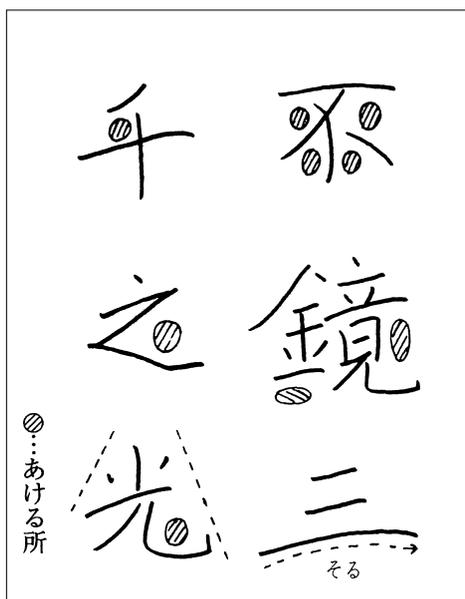
不鏡三千之光。

〈訓読〉 三千の光を鏡らさず。

〈意味〉 三千世界の光を照らしださなくなってしまう。

ポイント

不 一画目二画目は線を引き締めて張りのある線で。最終画はゆったり。
 鏡 一画目はゆったり長く。隣の横画は細く引き締めて。
 三 三本の線の起筆の入れ方、送筆のそり方、収筆のまとめ方に注意。
 千 起筆の入れ方に注意。横画はそりをつけ、縦画は筆先を線の中央に。
 之 二画目の起筆は弾むように突き立てる。右払いを力強く。
 光 横画は中心より左側を長く。最終画は曲げてから下げすぎないように。



(草書) 半紙

※ 落款は名前 + 臨 (十印) と入れます。

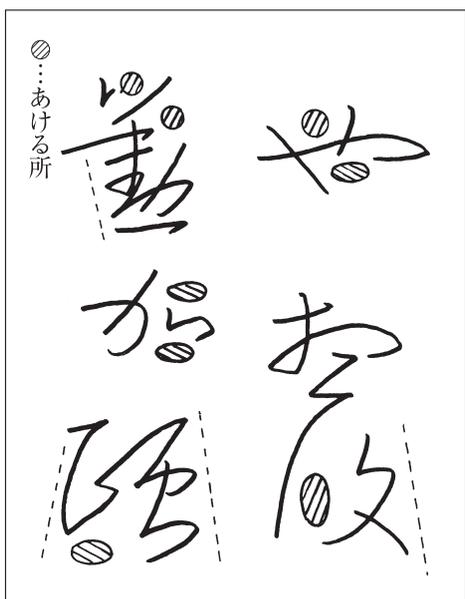


十七帖

(此大慶) 也。想復勤加頤(養)。
《訓読》 此れ大慶なり。想うに復た勤に頤養を加えよ。
《意味》 たいへんめでたいことです。さらに十分養生を加えられますように。

ポイント

- 也 横画は太細の変化をつけながら、ゆったり長く。
- 想 横への動きをゆったりしたカーブをつけて長く。
- 復 一画目は、前の字からつづける。旁は概形を三角形にとる。
- 勤 上部の動きをゆったり大きく。旁は下げた位置に。
- 加 一画目はゆったりしたカーブで。旁は上下の空間を空ける。
- 頤 線に太細の変化をつけながら、折り返しをしっかりと深く。



(隸書) 半紙

※ 落款は名前らっかん 十臨プラス (十印プラス) と入れます。



曹全碑

貢王庭。征鬼方。 〔訓読〕 王庭に貢せられて、鬼方を征し、
〔意味〕 君は朝廷に官として推薦されて、西戎を征伐したが、

ポイント

貢 三画目の横画は、筆圧の変化をつけて、ゆったりしなやかに伸ばす。

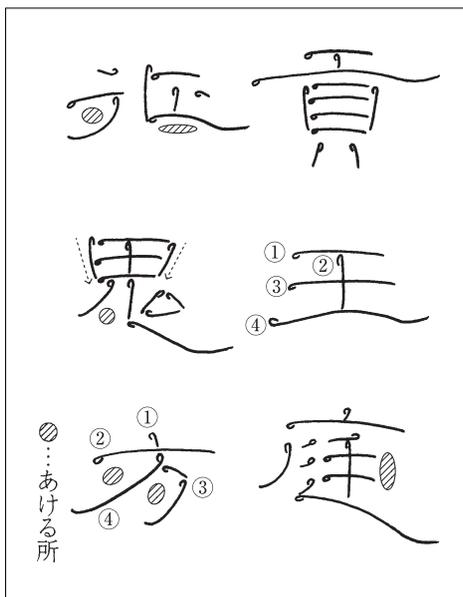
王 三画目、四画目の横画はしなやかにする。四画目は力強く太く。

庭 二画目は細くしなやかに。四画目以降は上部につめ、最終画は力強く。

征 全体に横画を長くして左右への動きを強調し、概形を扁平にとる。

鬼 一画目と二画目の縦画は内側へ向ける。右払いを伸びやかに強調する。

方 二画目は太くしなやかに。下部の左払いは収筆で持ち上げるように。



三段課題

(現在二段の方の課題)

(楷書・行書・漢字かな交じり・半紙創作の四課題、四枚を提出)

(楷書) 半紙

※ 落款は名前 十臨 (十印) と入れます。

雁塔聖教序



ポイント

越 「土」の横画は右上がりに。右払

いは抑揚をつけてゆったり長く。

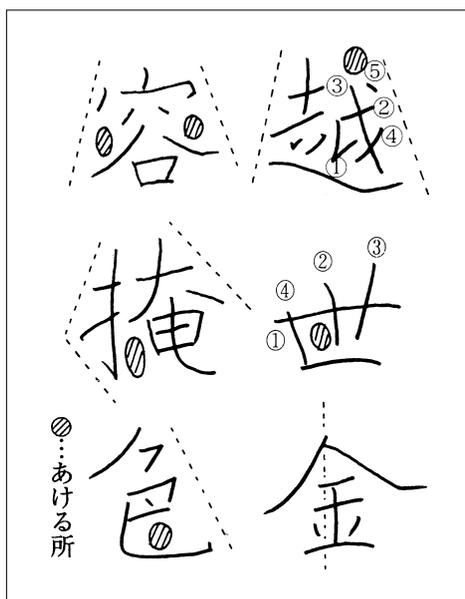
世 横画はそり気味に。縦画は下すばかりの方向に。

金 左右への払いを大きく伸びやかに。横画はそりをつけて。

容 上部は小さめに、中程の払いで字幅をゆったりとる。

掩 偏の縦画はそり気味に。旁は下部を右寄りに。

色 一画目に対し、最終画を右に長く伸ばすことによりバランスをとる。



(遷儀) 越世。金容掩色。

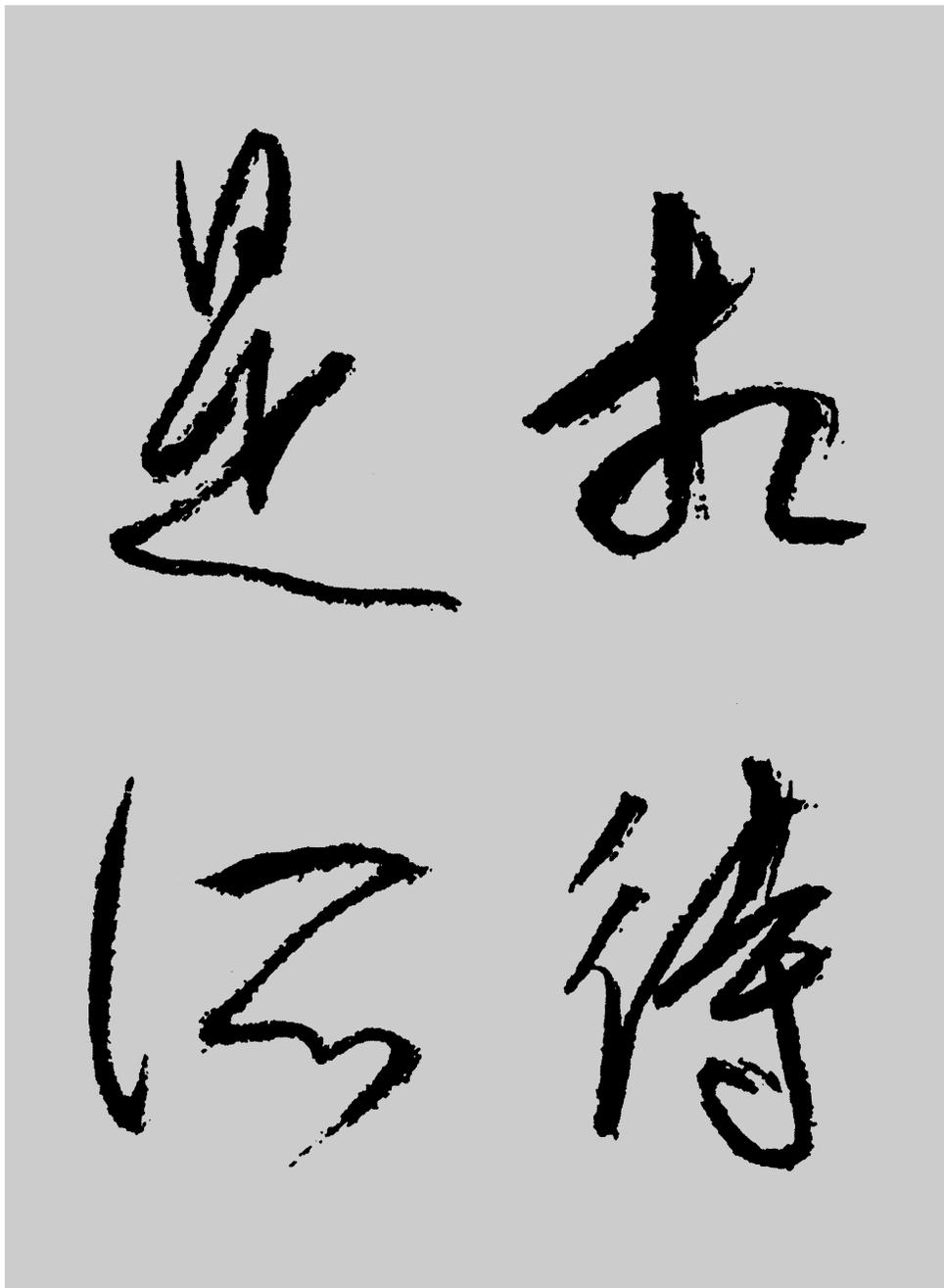
(訓読) 遷儀世を越えるに及んで、金容色を掩いて、

意味 俗世の法を超越すると、仏陀の金色の姿も輝きを失い、

(行書) 半紙

※ この部分は草書もありますが、行書の課題としてあつかいます。

※ 落款は名前^{らっかん} + 臨^{プラス} (十^{プラス}印) と入れます。



風信帖

ポイント

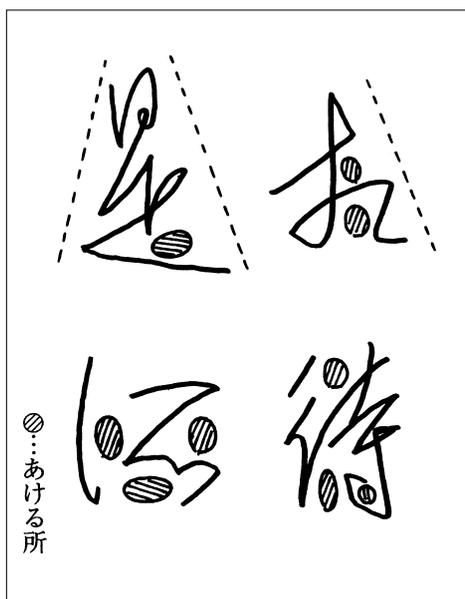
相 一画目は力強く右上がりに進む。

縦画の起筆は下からつき返すように逆筆で入れ、下部では抜くようにして左へ進み、筆をあてる。

待 傍の横画、縦画の方向、長さに注意して、切れ味のよい線でリズムカルに。

是 上部は右上がりにとり、最終画を右下がりに長く。つき返す筆使いをしっかりと。

所 転折をしっかりと書き、空間をゆつたりとつて、動きを大きく。



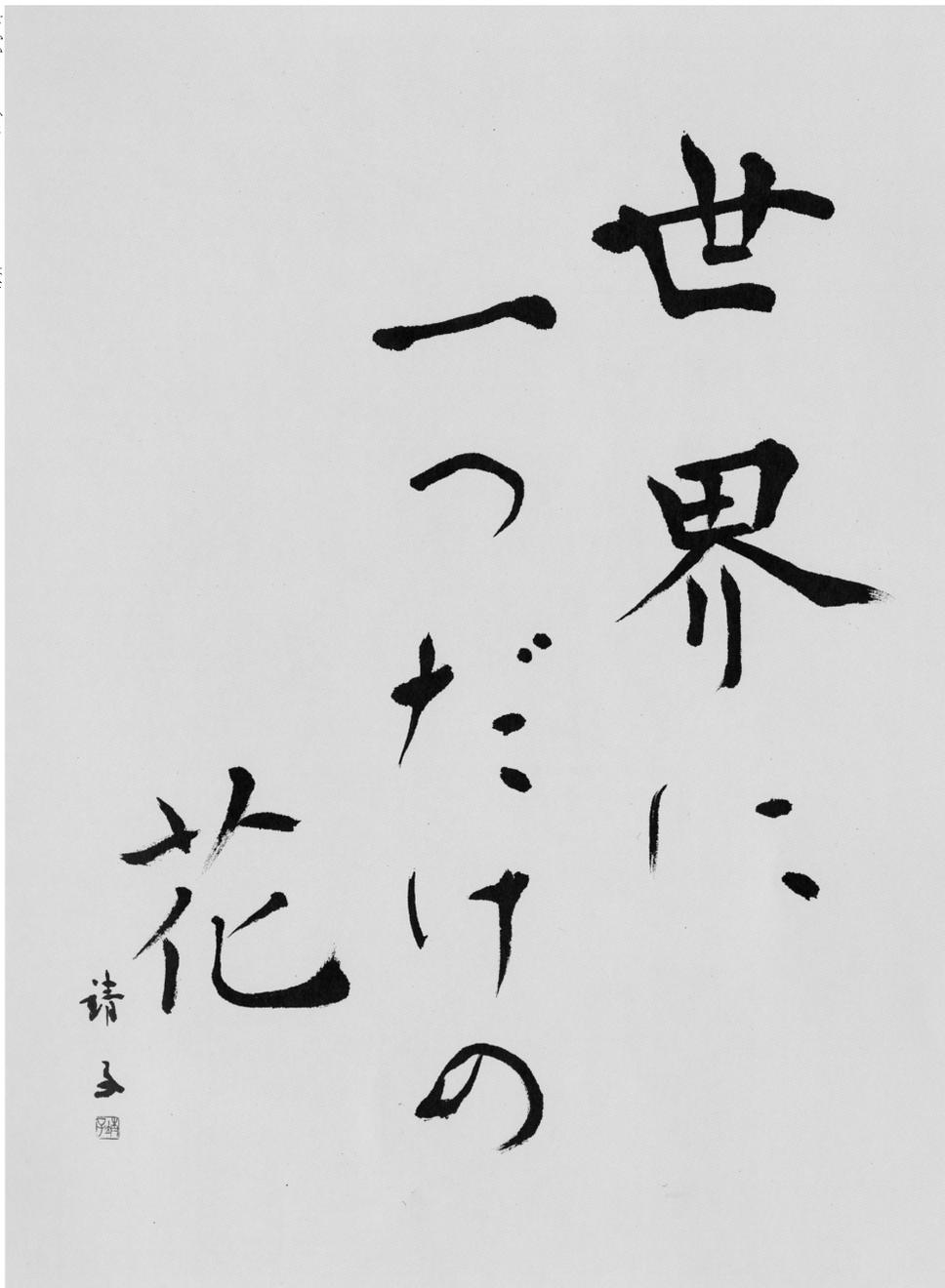
(留意) 相待。是所 (望。)

(訓読) 留意して相待ちたまへ。是れ望む所なり。

〈意味〉 そのおつもりで、お待ち下さいますよう、希望してやみません。

※ (漢字かな交じり) 半紙
 落款は名前のみまたは名前+書 (十印) と入れます。

世界に 一つだけの 花



ポイント

イメージ

・抑揚をつけ、しなやかに

紙・筆・墨

・半紙 (縦長に使う)

・4〜6号の大きさ

・にじまない程度に磨る

アドバイス

・漢字は筆先の弾力を生かし、細くてもしなやかに、かなはそれに合わせてゆつたりと大きなリズムで書く

古典参考資料

・褚遂良「雁塔聖教序」(唐時代)

遷儀越世金容掩

方得法其花蓮出

変化の妙を極め、細い中にも弾力性のある伸びやかな躍動感が特徴



(半紙創作)

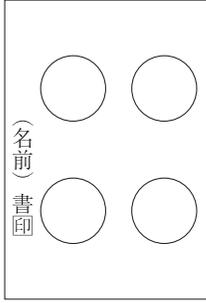
温故知新

(おんこちしん) 論語

ふるき物事をたずね 新しい知識を求める

ポイント

- ・半紙(縦書き)
- ・一行目に二文字、二行目に二文字入れる。
- ・書体自由。
- ・名前(雅号でもよい)も調和するように体裁よく書く。
- ・名前(雅号)＋「書」(十印)



創作にむけてのアドバイス

●書体・書風を考える

- ・与えられた語句を、どの書体で書くかを決める。字形が確かかどうか字典で調べる。

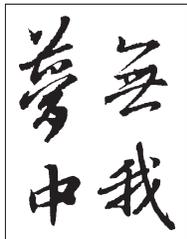
〈参考書〉新書源 二玄社(五、八〇〇円＋税)

新書道字典 二玄社(四、八〇〇円＋税)

※価格変動があります。

- ・作意をこらさず、素直に書いてみる。その時表現されたものを大切にすると同時に、今まで学習してきた字形のとり方、ポイント等も参考にして書風を整えていく。あるいは好きな古典から集字して統一感のある作品に仕上げていく。

「集王聖教序」から集字



「集王聖教序」風作品



「曹全碑」から集字



「曹全碑」風作品



●作品の仕上げ

- ・作品の最後に署名・印を押し、完成する。

四段課題

(現在三段の方の課題)

(楷書・行書・半切臨書・半紙創作の四課題、四枚を提出)

(楷書) 半紙

※ 落款は名前十臨(十印)と入れます。

建中告身帖



(光祿大夫・行吏部尚書・充) 禮儀使・上柱國・(魯郡開國公顏真卿)。

〈訓読〉 光祿大夫・行吏部尚書・充 禮儀使・上柱國・魯郡開國公なる顏真卿は、

〈意味〉 光祿大夫・行吏部尚書・充 禮儀使・上柱國・魯郡開國公である顏真卿は、

ポイント

礼 偏は右上がりに太く、三画目はそり気味に。旁は縦画を内側へ向ける。

儀 偏は縦長に太く。旁は横画を細く縦画を太く、下部の動きを大きく。

使 旁の上部は細めに。七画目の左払いは垂直に進み下部で払う。最終画は筆先が線の上を通り、力強く。

上 三画目の起筆、収筆をしっかりと。

柱 偏は縦長に力強く。旁は最終画が上がった位置に収める。

国 一・二画目の縦画は、左右にふくらむようにとり、長めに。



◎...あける所

(行書) 半紙

※ この部分は草書もありますが、行書の課題としてあつかいます。
 ※ 落款は名前^{らっかん} + 臨^{フラス} (十^{フラス}印) と入れます。

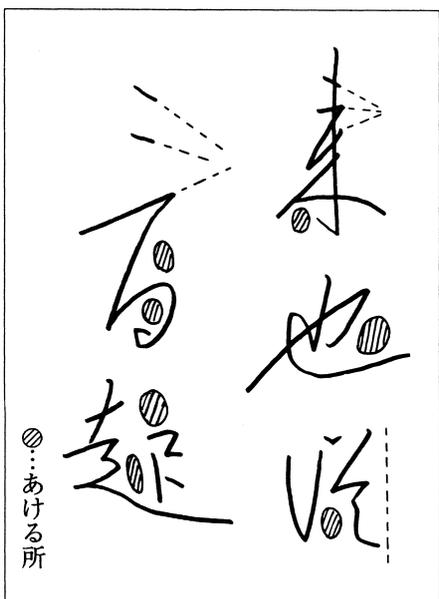


風信帖

(香等以三日) 来也。從三日起(首)。
 <訓読> 香の等きは、三日を以ちて来る(也)。三日より起首し、
 <意味> お香等は、三日に届きました。三日より始めて、

ポイント

- 来 一画目から三画目の線の方向に注意。縦画をひきしめてすっきり。
- 也 始筆は逆筆で入れ、弾力を生かしてダイナミックに。
- 從 全体を左傾させる。旁は上部を大きく、下部の動きを小さく。
- 三 三本の線の延長が、一点に集中する方向にする。
- 日 前の字からの勢いを受けて、一画目につづける。右傾させる。
- 起 「走」にようの線の方向に注意。「已」は左傾させて小さく。



（半切臨書）

引以爲流觴曲水列坐
 ① ② ③ ④ ⑤

ポイント
 ・半切（135×35cm）に大筆で臨書。
 ・左側に名前＋臨（＋印）と入れる。
 ・単体文字から次の文字へは気脈を通し、流れが止まらないようにする。
 ・文字の大小、長短が混じっているのでそれを生かして変化をつけてまとめる。

蘭亭序

⊙…あける所

縦画は最後

内側に
向けて

傍の上部を
右上がりに

横への動きを
大きく

横広に

転折を
しつかり

引以爲流觴曲水列坐
 其次雖無絲竹管絃

其 次 雖 無 ① ② ③ 絲 竹 管 絃

引以為流觴曲水。列坐其次。雖無絲竹管絃（之盛。）
 ①訓読 引いて以て流觴曲水を為し、其次に列坐す。
 ②意味 それを引いて杯を流す曲水をつくり、人びとは
 ③順次に並んで坐った。竹と糸の、管絃の華やかさ
 ④はないとはいえず、
 ⑤絲竹管絃の盛無しと雖も、

そりを
つけて

転折を
しつかり

横への動きを
大きく

しなやかな
動きで

太細の
変化を
つけて

長い画は
そり気味に

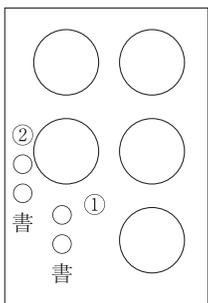
（半紙創作）

心清聞妙香

（心清くして妙香を聞く）

杜甫

①意味 心は澄みきって妙なる香りがただよってくる。



書体自由。

落款の位置は①②のどちらでも良い。

五段課題

(現在四段の方の課題)

(①・②・③・④・⑤の五課題、五枚を提出)

① 牛欄造像記

(半紙)

② 枯樹賦

(半紙)

③ 草書千字文

(半紙)

④ 漢字かな交じり創作

(半紙)

⑤ 漢字創作

(半切)

落款は、

・ 臨書……名前(雅号)

プラス
+ [臨]

プラス
(+印)

・ 創作……名前(雅号)

プラス
+ [書]

プラス
(+印)

①



妙楽自在

②



驚視公輸眩目

3

鉅野洞庭曠遠

鉅野洞庭曠遠

- ④ 漢字かな交じり創作（半紙へ縦・横自由）・書体・構成自由へただし、草書と変体仮名は使用不可。漢字とひらがなを置き換えな
い）・落款も調和よく入れる）

意志のある所には道がある

- ⑤ 漢字創作（十四字・半切・二行・書体自由・落款も調和よく入れる）

芳樹無人花自落 春山一路鳥空啼

李華 樹々は芳ばしい花を開いているが、それを観る人もなく、ひとりでに
散り落ち、春の山路に鳥はしきりに鳴いている。



〒186-8001 東京都国立市富士見台2-36-2 ☎042-572-3151 (代表)

ホームページ <http://www.n-gaku.jp>

書道・ペン字検定課題集 (保存版) 2022.4月改訂

©NHK 学園 Japan

※ご記入いただいた個人情報は、成績管理等に使用します。また、NHK 学園書道・ペン字検定や書道展、スクーリング、通信講座のご案内に使用させていただきます。